

2023年7月3日



『朝礼時講話～報告事項』

(1) 講話概略【耳が聞こえんのも、いい世界なもんだぞ…】

以前、光寿苑に入居されていた高橋喜平さんというおじいさまのお話です。

喜平さんは、言わずと知れた西和賀・岩手の著名人でございますが、雪博士や雪崩研究の第一人者の方であります。光寿苑に入居する少し前まで、90代の喜平さんは盛岡で一人暮らしをされていました。耳が不自由で、会話がままならなくなっていた喜平さん。娘さんや長男さんご夫婦でお金を出し合っ
て、何十万もする補聴器を買って差し上げたのだそうです。

『お父さん、これでようやく話が見えるようになるね。話できるようになるからね。良かったね。』

と言って、補聴器を渡したのだそうです。喜平さんは、ニコッと微笑み、“ありがとう”と言って補聴器を耳に付けます。しかし、小一時間経った頃のこと。娘さんたちが喜平さんに合所から話し掛けても返事がない。居間に居た喜平さんを見ると、あの補聴器を外してテーブルの上に置いているではありませんか！たまたま娘さんが喜平さんに元に駆け寄り、耳元でこう言います。

『お父さん、補聴器何で外してんの！また会話できないでしょ！』

そう言われた喜平さん、一呼吸置いた後、微笑みながらこう言い放ったのだそうです。

『耳が聞こえんのも、いい世界なもんだぞ…』



その言葉に、そこに居たご家族一同が“ん～、なるほど…”と唸ったと言います。一般的には目は見えた方がいいと思うし、耳も聞こえた方がいい。歩けた方がいいと思う事が多いのだと思います。勿論、歩けるようにとリハビリする姿は尊いですし、一人でご飯を食べられるようにと懸命に箸を持つ姿も尊いものです。それはそれで大切ですが、個々の感じ方・捉え方の違いがあって良いのだと、このお話を聴いて思ったものでした。長い人生、幾多の場面で色々な音を聞いてきた。今はもう、聞こえない世界も楽しんでいるから私はこのままでいいんだよ…と仰っているのでしょうかね。心の底から湧き上がる、“私は私のありのままでいい”という命そのものの願いを受け取った人の尊い姿のように感じとったものです。自然と共に生きながら、長い時間を掛けて物事の捉え方の常識を超越されていった喜平さんをふと思い出し、講話とさせていただきます。

(2) 連絡事項について

- ① 職員の復帰についてです。M. Sさんが本日より復帰です。お帰りなさい。K. Tさんが今月後半から復帰となります。それらを加味して、R 5年度4月から3カ月間、湯の町地区にヘルプに入ってくれていたAさんが元々の配属のこまち通りに戻ります。まだ、時折ヘルプ依頼はあるかも知れませんが、3カ月間おかげさまでした。
- ② 先月もお伝えしましたが、事務のK. Tさん今月退職となります。次の事務員として、今月末よりK. Tさん 20代の方が来てくれる事になりました。
- ③ 医務のS. Fさんが年内に退職の運びとなります。令和の始まりと共に来て下さり、前向きに物事を捉え実践する姿や、相手をいかに優しく受け容れるかなど、沢山教えて頂きました。また、ひなたぼっこ勤務のN. Yさんがご家庭の事情で急ですがこの1カ月ほどで退職の運びとなりました。中々見つからない職種ですので、総力を挙げて探していきます。何か情報がありましたら、小さい事でも良いので教えてください。
- ④ 4月、めでたくお子様がお生まれになりましたRさんとSさんの出産お祝いです。おめでとうございました。

【講話、連絡事項 = 理事長】